

1 調査日 平成 30 年 7 月 2 日（月）

2 調査の概要

（1）大戸川改修工事および県道大津信楽線付替道路工事現場等

大戸川は、古くからたびたび氾濫を繰り返してきた河川であり、平成 25 年、台風 18 号の影響による大雨の際にも、氾濫によって、流域の広い範囲で浸水等の大きな被害をもたらした。

現在、大戸川においては、河川の拡幅や築堤等を行う河川改修工事が実施されており、平成 30 年 5 月現在、計画区間の 7 割程度で工事が完了している。また、大戸川が流れる同市上田上地区においては、大戸川ダム建設事業に係る県道大津信楽線の付替道路工事も実施されているところである。

また、国において凍結中の大戸川ダム建設事業をめぐっては、今年度、本県が独自に大戸川流域に対するダムの治水効果等を検証する勉強会を発足するとともに、今年 5 月には、知事が初めて現地を訪れ、地域住民との意見交換を行うなど、新たな動きが見られる。

これらのことから、大戸川の河川改修工事および付替道路工事の進捗状況ならびに大戸川ダム建設予定地の現状について、県土木交通部や国土交通省近畿地方整備局大戸川ダム工事事務所から説明を受けるとともに、現場の視察を行った。



(2) 立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市）

本県の交通政策においては、温室効果ガスの排出量削減、交通安全や渋滞緩和の観点から、自家用車から公共交通への利用転換を促していくことが重要な課題となっている。

特に、本県の南部地域においては、人口や産業の集積によって交通渋滞が多発する状況となっており、持続可能な地域のまちづくりを進めていくためにも、公共交通網のより一層の活用や都市中核施設間を結ぶ新たな交通システムの検討等、各種の問題への対策が求められている。

こうした中、草津市のJR南草津駅～立命館大学びわこ・くさつキャンパス間においては、新たな交通システムとして、平成28年4月より、2台の車体を幌（ほろ）でつないだ連節バス（ジョイントライナー）が運行されており、通勤・通学時間帯における南草津駅周辺の交通渋滞の緩和等に期待を集めている。

このことから、連節バス（ジョイントライナー）の運行状況および効果等について、運行事業者である近江鉄道株式会社および立命館大学びわこ・草津キャンパス事務局から説明を受けるとともに、今後の展開等について意見交換を行った。

